

【日時】 令和2年2月7日（金） 14：45～16：00

【参加者委員】 山口 裕稔 会長（槻の木高等学校 PTA 会長）  
山口 善章 委員（高槻市立第一中学校 校長）  
田中 隆夫 委員（観世流能楽師シテ方）  
宮坂 政宏 委員（株式会社 ERP 編集委員）  
山本 冬彦 委員（関西大学文学部 教授）

【校長】 大西 雅美

【事務局員】 飯田 卓（槻の木高等学校 教頭）  
山本 尚（槻の木高等学校 首席・学校運営室長）  
小西 久美子（槻の木高等学校 首席・学習指導室長）  
記録係 矢野 祐子（槻の木高等学校 教諭）

## 1. 開会

委員紹介及び事務局員紹介

〈学校長あいさつ〉

大西校長

今年度の学校経営計画の達成状況と、今までにいただいた学校運営協議会の皆様のご意見や、学校教育自己診断の結果等を踏まえて来年度の学校経営計画の案をお示しさせていただきましたので、ご意見・ご承認いただければと思っております。

## 2. 平成31年度学校経営計画について

### （1）後期授業アンケート結果について

飯田教頭

本校では、1年間に前期・後期の2回授業アンケートを実施しており、今回は、後期の授業アンケートの集計結果です。今期後期の肯定的意見の結果を見ると、昨年度後期並びに今年度前期より上昇傾向にあり、本校教員の努力が一定評価されています。この結果は本校の職員会議で周知し、個別表と共に全教員に配布すると共に、教員が各自、分析に活かしています。学校としては今後も現状に満足せず、授業改善に努めていきたいと考えています。

### （2）学校教育自己診断結果報告

〈生徒・保護者について〉

山本首席

アンケート対象者は、アンケート実施日に出席していた生徒全員となっており、例年生徒の回答者数にはあまり変化はありません。保護者については、お願いベースで依頼し、提出があった分が回答数になっています。毎年、本校生徒約710人中、550件程度またはそれを上回る回答があります。今回は昨年度に比べ回答数が26件ほど減っていますが、回答率は約77パーセントで信頼できる数字となっています。教職員の回答は減少しており、その原因は明確ではないが、結果は上方に推移している傾向にあります。保護者に関しては、昨年度

とほぼ変わらない数字が出てきています。

次に生徒についてですが、学校生活全般については、前年度に比べ上方に推移、もしくは現状維持という結果でした。全体的に意識を高く学校生活を送っている生徒が増えてきているという印象を受けています。

学習活動については、1年生に関しては軒並み上昇しており、2、3年生については授業の内容に関する項目が下降しています。これには3年生の学力実態が影響していると考えられます。この15期生は本校の倍率が下がった年度に入学した生徒で、全国模試の平均も例年より低い学年ですが、本校の学習内容はある一定の大学に合格する水準で行われているので、授業を難しく感じているように思われます。3年生は勝負所で弱さが出る生徒もいますが、大変素直であり、槻の木高校を選択したことに関しては前向きに捉え、3年間よく頑張ってきたという印象があります。

進路指導については、3年生で一部下降しているが、その他は現状維持もしくは上昇しています。特に46番の「一日勉強会は学力向上に役立つと思う」については全学年で数値が上昇しています。44番の「自宅で学習する習慣ができています」に関しては、自習室や塾など外で学習する生徒が増加する傾向にあり、その結果が反映されているようです。特に1年生の通塾率が上がっており、中学受験の時に通っていた塾にそのまま通い、自習室などを使って勉強している生徒も多いようです。

3年生の中には、スマホを回避するために通塾を選んでいる生徒もいると考えられるが、自宅外での学習に加えて自宅での学習習慣がないと、絶対的な学習時間が足りないので、生徒が自宅で学習できない傾向にあるのは今後の課題であると言えます。

生活指導については、1年生は昨年度の1年生に比べて上方に推移しており、生活指導という項目ではなかなか出ない良い数値がでました。2年生は1年生の時に生活指導に不満を持っている生徒もいましたが、2年次でのアンケート結果では、昨年度の2年生と変わらない数値が出たので2年生も落ち着いてきたと言えます。生活指導に不満がないというこの結果はなかなか出ない数値だと思っています。

行事・部活動については、例年、文化祭・体育祭に関して特に今年は盛り上がった、盛り下がったということなく同じ水準で行っていますが、今年度は、1・2生で数値が上昇しました。これは、生徒たちの意識の中で、人間関係で起こる苦勞の受け止め方に変化が現れてきたからではないかと考えられます。このように、学校行事において人間関係で苦勞を乗り越えた経験は、学力にも跳ね返り、人生の経験値も上がります。

緊急時の対応については、生徒の間では数値が下がっています。昨年度は台風、地震などの災害ありましたが、今年度は特に大きな災害がなかったためそのことが結果に表れたかのではないかと思います。

#### 〈教職員について〉

大西校長

学校経営については、1番の「学校の教育活動について、教員間で日常的に話し合っている」、50番の「学校運営に教職員の意見が反映されている」、55番の「教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」などの項目において上昇が見られ大変嬉しく思っています。また73番の「研修・研究に参加した成果を、他の教職員に伝える機会が設けられている。」の項目も上昇しており、これは本校で行われている伝達研修が肯定的に捉えられていると受け止めています。また、76番の「指導要録の記入、点検が年度内に適正に行われている」の項目での上昇は、行われるべきことが正しく行われているという認識が浸透しているということだと思います。一方、59番の「学校の予算は一定のルールに基づき、適切に編成・執行されている。」という項目が下降しています。今年度は、年度途中で光熱費が上がり、予算が逼迫し、消耗品が十分に確保できないという状況になったので、このような結果が出たと考えられます。

人権教育に関しては、数値があまり良くないということで、本校の課題として挙げられるかと思っています。人権問題は様々で、それぞれの項目について十分な時間をとって取り組んでいるとは言い難いですが、今後、少しずつでも数値を上げていきたいと思っています。人権研修については、次回の職員会議で、山本首席からの伝達研

修を予定しています。また、62番の「施設・設備の拡充は、長期的見通しに立って計画されている」、63番の「施設・設備について日常的に点検や管理が行われている」という項目においても数値が下降しました。本校は府立学校で2番目に校舎が古いということもあり、校舎に不具合が起こりやすく、今年度は水道管が破損するということが2度も起こったので数値が下降したと考えられます。

### (3) 平成31年度学校経営計画（達成状況案）について

大西校長

今回、評価指標を大きく下回ったのは、年間遅刻者数です。目標は650人以下となっていますが、2月7日現在の時点で893人が遅刻しています。そのうち連絡ありの遅刻は719件、連絡なしの遅刻は74件でした。連絡ありの遅刻の件数は、2年生は1年生の2倍、3年生では4倍となっています。連絡なしの遅刻に関しては、学年による差はありません。不登校傾向の生徒が、遅刻してでも学校に来ようとしていたため、遅刻が増えたという側面もあります。

NEXT STAGEについては、今年度は、韓国研修旅行は実施できませんでしたが、ビデオレターを通して姉妹校生徒と交流しました。1月のタイ研修旅行には、本校生徒15名が参加しました。また、今年度からの新たな取り組みとして3月に国内留学プログラム（5日間）も実施予定で、23名が参加することになっています。

### 3. 令和2年度学校経営計画について

大西校長

学校経営計画の目標値はすべて達成時期が3年後（令和4年度）に設定されています。今回、加筆された箇所は、2. 中期目標（1）アの「生きて働く「知識・技術」の習得、未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の向上のための取り組みを推進する。」と、3. 本年度の取り組み内容及び自己評価 2.先進的で他をリードする学校づくり（1）イの「人権意識の向上」という箇所です。

これまで同様、規範意識を育てると共に進路実現のための学力の向上を支援します。同時に、グローバル社会で活躍できる主体性、自尊感情、人間関係調整力を育てていきたいと考えています。

### 4. 協議

山口会長：遅刻者数が増えています。学校として何か対策はとっていますか。

大西校長：不登校ぎみなどの理由のある遅刻の生徒に遅刻指導すると、逆効果にもなり得るので、配慮しつつ、従来の入出許可証を用いた遅刻指導を着実に続けていきたいと思っています。

山本委員：まず、進路指導と主体的な学びをどのように繋げるかが基本だと思います。自分の進路の見通しと自分の今の学びがうまく繋がれると遅刻者数にも変化が現れるのではないのでしょうか。

山口会長：中学校でのスマホの指導状況はどうですか。

山口委員：スマホの持ち込みについての大阪府の方針はありますが、判断は各自治体に任されており、高槻市はこの近隣では厳しい方です。保護者からも学校への持ち込みは禁止して欲しいという要望が強いです。

田中委員：スマホは現代社会ではなくてはならないものになっていますが、学校などではルールがしっかり守られるべきだと思います。

山本首席：学校とは「思い通りにならないこと」を経験するところです。便利さや快適さを追求するところではありません。そうならないように、子どもに目的意識を持たせ、教育の内容を考えていかなければなりません。例えば、スマホは便利なものではありますが、人生においては、不便さを体験することが貴重な経験だと思います。

山本委員：勉強の面白さは、エンターテインメントの面白さとは違いますが、学ぶことが面白いと感じることがで

きたらアナログ的な苦勞をいとわないようになるのだと思います。

宮坂委員：教育の意図を明確にし、生徒たちに目的意識を持たせることが重要だと思います。勉強が面白いと感じることが、学びに向かう力となり、それが主体的な学び、深い学びへと繋がっていきます。何を目標にすれば何を達成するのかということを整理、明示化することが必要だと思います。ルーブリックなどを使って目的と手段を図式化し、整理することが有効です。

山口会長：令和2年度の学校経営計画に「人権意識の向上」が加わりましたが、何か具体的なプランはありますか？

大西校長：グローバルな視点で多様性を認めることが大切です。自分を大事にしながら、相手の人権を尊重するという意識を生徒に持たせるために、まずは教員が人権問題に対する理解を深めることが重要です。教員に大阪府立学校人権教育研究会などが主催する人権研修に参加してもらい、今後も伝達研修を積極的にやっていきたいと思っています。

山本委員：一昨年に教員の働き方改革に関して中央教育審議会による答申及びガイドラインが出ましたが、それに関して槻の木高校での現状はいかがですか。

大西校長：大阪府の部活動指導方針では、年間104日以上は活動しないというルールがあり、本校もその方針に従って活動しています。毎月、顧問に翌月の活動計画を出してもらい、年間の活動日数が104日を超えないよう計画的に活動しています。教員の働き方改革を配慮しながら教育的効果も踏まえて活動しています。また、本校教員は授業に力を入れているため、授業の準備に時間がかかっていますが、一人で抱え込まず、みんなで協力する体制を作るよう努めています。

田中委員：3月7日（土）に現代劇場でたかつき市民能の公演をします。NEXT STAGEの一環として槻の木高校の生徒15名に受付などを手伝ってもらおうと思っています。

山口委員：学校経営計画及び学校評価の2(1)に「強い組織力による学校力の向上をめざし」とありますが、学校教育自己診断のアンケート結果や授業アンケートの結果によく表れていると思います。学校教育自己診断の学校経営についての1番の「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている。」の数値が高いことが、子ども・保護者の満足度に繋がっているのではないかと感じます。

大西校長：学校教育自己診断結果報告の47番の「中期的な目標を踏まえ課題を明確にした学校経営計画を策定し、PDCAサイクルによる学校経営を推進している。」が93パーセントになっていることにも表れています。学校目標や学校経営計画をみんなで共有し、進捗状況や達成状況を随時報告してもらっているため、このような良い結果が出ているのではないかと感じています。

宮坂委員：何が目的でその目的に至る手段が何なのかを考える時期に来ていると思います。目的達成の手段が玉突きになっていたり、群れになっていたりするものがあるので、その玉突きになっている目的達成の手段とは何なのか、群れになっている目的達成の手段とは何なのかを考えることが、働き方改革にも繋がるのではないかと感じます。遅刻は、単独の問題ではなく、様々なことに繋がっているため、目的と手段を整理して考えて欲しいと思います。

山口会長：委員の皆様、令和2年度学校経営計画案は、承認するというところでよろしいでしょうか。（異議はなし）

槻の木高校はもうすぐ20周年を迎えます。20周年に向け、槻の木高校は変わってはいけない部分、変わるべき部分があるかと思いますが、委員の方々の意見を生かし、更によりよい学校になるよう今後も尽力していただきたいと思っています。

大西校長：ありがとうございました。ご意見を踏まえた学校経営を行ってまいります。

## 5. 閉会